

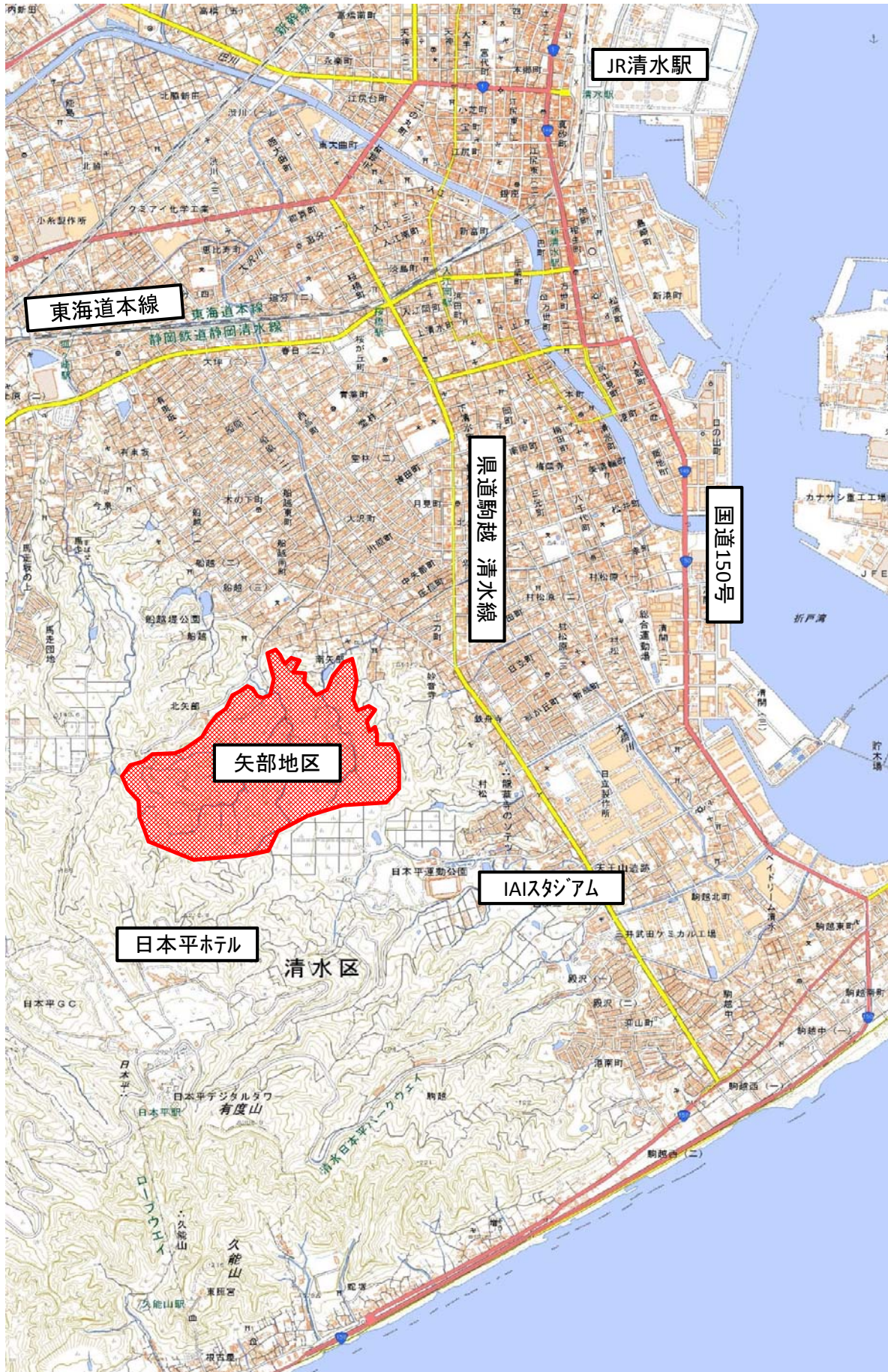
番号	41	平成28年度公共事業再評価調査		担当課名	農地整備課																										
事業名	農地整備事業(畑地帯担い手育成型)		事業主体	静岡県																											
地区名	や べ 部		関係市町村	静岡市																											
事業採択年度	平成 13 年度	計画期間	平成13年度 ~ 平成31年度																												
再評価理由	再評価実施(H23)後5年間が経過した時点で継続中		工事着手年度	平成 14 年度																											
事業費 (百万円)	全体計画事業費	H26年度まで	H27年度	H28年度見込	H29年度以降																										
	4,394	2,842	365	226	961																										
事業量	区画整理工 66.3 ha	31.4	14.2	14.0	6.7																										
事業概要	<p>(1)事業目的 急傾斜樹園地を区画整理により平坦化し、農道整備及び畑地かんがい施設整備を総合的に実施することにより、農地利用集積による経営規模の拡大、営農意欲の高い担い手農家の育成を図り、農業生産力の向上並びに効率的かつ安定的な農業経営の実現を図る。</p> <p>(2)事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区画整理：面積 66.3ha ・畑地かんがい：面積 66.3ha ・暗渠排水：面積 66.3ha ・農地保全：面積 66.3ha 																														
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 本地区の農産物は在来種のみかんが主であるが、TPPに伴う国内外の産地間競争の激化、みかん価格の長期低迷を克服するためには生産コストの縮減と、従来の「青島」に加え、「はるみ」、「不知火」などの高収益品種への改植によりブランド化を図ることが必要である。 本地区に隣接する2地区の団体営事業と合わせて、100ha以上の樹園地が平坦化されることで、担い手農家への農地利用集積が大きく進捗する見込みである。先進的な営農へのシフトを実現し、産地形成を図る本事業への期待は、以前にも増し高まっている。</p> <p>(2)事業の投資効果 総便益(B)： 6,481,782千円 総費用(C)： 5,609,523千円 総費用総便益比(B/C)： 1.16</p> <p>[担い手への農地利用集積]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>事業前</th> <th>計画</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>担い手数</td> <td>14名</td> <td>→ 14名</td> <td>※受益農家数は243名</td> </tr> <tr> <td>農地集積面積</td> <td>14.4ha</td> <td>→ 23.2ha</td> <td>※担い手経営面積</td> </tr> <tr> <td>担い手シェア</td> <td>21.7%</td> <td>→ 35.0%</td> <td>※担い手の経営面積の割合</td> </tr> <tr> <td>農地集積増加率</td> <td>-</td> <td>→ 61.5%</td> <td>※担い手の経営面積増加率</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3)事業の進捗状況(H28年度まで) H29年度以降残事業</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>事業費ベース進捗率</td> <td>: 78.1%</td> <td>区画整理：面積 6.7ha</td> </tr> <tr> <td>事業量ベース進捗率</td> <td>: 89.9%</td> <td>農地保全：面積 40.3ha</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						事業前	計画		担い手数	14名	→ 14名	※受益農家数は243名	農地集積面積	14.4ha	→ 23.2ha	※担い手経営面積	担い手シェア	21.7%	→ 35.0%	※担い手の経営面積の割合	農地集積増加率	-	→ 61.5%	※担い手の経営面積増加率	事業費ベース進捗率	: 78.1%	区画整理：面積 6.7ha	事業量ベース進捗率	: 89.9%	農地保全：面積 40.3ha
	事業前	計画																													
担い手数	14名	→ 14名	※受益農家数は243名																												
農地集積面積	14.4ha	→ 23.2ha	※担い手経営面積																												
担い手シェア	21.7%	→ 35.0%	※担い手の経営面積の割合																												
農地集積増加率	-	→ 61.5%	※担い手の経営面積増加率																												
事業費ベース進捗率	: 78.1%	区画整理：面積 6.7ha																													
事業量ベース進捗率	: 89.9%	農地保全：面積 40.3ha																													
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	<p>平成17年度より本格的に区画整理を実施し、H28年度末で約9割の面整備が完了する見込みである。非農用地の計画見直しや地区境界における境界確定に不測の時間を要したが、今後は順調な事業の進捗が見込まれ、平成29年度末には全ての畑面への植栽が完了する見込みである。</p> <p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>																														
【視点3】 コスト縮減・代替案立案等の可能性	<p>静岡市発注による非農用地(市道北矢部日本平線)造成工事で発生する残土を基盤土として受け入れ、基盤造成費用のコスト縮減を図る。 畑地かんがい施設における用水管の基礎砂を調整池の浚渫で発生した粒度の細かい砂質土を用いることにより、コストの縮減を図る。</p>																														
対応方針	<p>(1)対応方針 本事業を(<input checked="" type="radio"/> 継続) ・ 見直し後継続 ・ 中止) する。</p> <p>(2)理由 本県の基幹作物である「柑橘」は、本地区の主要作物であり、県内有数の産地として確立していることから、受益者の営農意欲は非常に高く、早期完成を熱望している。 また、清水地域は、中部横断自動車道等の新たな交通との連携により、都市農村交流の促進が期待され、新しいビジネスの創造など地域全体の活性化に取り組んでいくため、事業の継続が妥当と判断する。</p>																														

費用対効果の分析資料

担当部課名 農地整備課

事業名	農地整備事業(畑地帯担い手育成型)	地区名	矢部	やべ																				
経済効果項目の体系	事業効果	食料の安定供給の確保に関する効果	作物生産効果	<input checked="" type="checkbox"/>																				
			品質向上効果	<input checked="" type="checkbox"/>																				
			営農経費節減効果	<input checked="" type="checkbox"/>																				
			維持管理費節減効果	<input checked="" type="checkbox"/>																				
			営農に係る走行経費節減効果	<input checked="" type="checkbox"/>																				
		農業の持続的発展に関する効果	国産農産物安定供給効果	<input checked="" type="checkbox"/>																				
			耕作放棄防止効果	<input type="checkbox"/>																				
			災害防止効果(農業)	<input type="checkbox"/>																				
		農村の振興に関する効果	農業労働環境改善効果	<input type="checkbox"/>																				
			災害防止効果(一般資産)	<input type="checkbox"/>																				
			地域用水効果	<input type="checkbox"/>																				
			一般交通等経費節減効果	<input type="checkbox"/>																				
			地籍確定効果	<input checked="" type="checkbox"/>																				
		多面的機能の発展に関する効果	国土造成効果	<input type="checkbox"/>																				
			非農用地等創設効果	<input type="checkbox"/>																				
災害防止効果(公共資産)	<input type="checkbox"/>																							
水源かん養効果	<input type="checkbox"/>																							
景観・環境保全効果	<input type="checkbox"/>																							
			都市・農村交流促進効果	<input type="checkbox"/>																				
効果の算定																								
総便益の内訳	作物生産効果 区画整理の実施により、耕作条件が改善され作物増収の効果が発生する。 [便益] = 2,458,232 千円																							
	品質向上効果 区画整理内の道路整備により、荷痛み防止工が発生する。また、耕作条件の改善により品質向上効果が発生する。 [便益] = 910,382 千円																							
	営農経費節減効果 区画整理及び畑地かんがい施設整備により、農作業時間の縮減効果が発生する。 [便益] = 1,549,891 千円																							
	維持管理費節減効果 区画整理内の道路整備や畑地かんがい施設整備により、施設の維持管理費が新たに発生する。 [便益] = -10,551 千円																							
	走行経費節減効果 区画整理内道路の整備により、農家から農地への輸送距離の縮減効果が発生する。 [便益] = 1,188,331 千円																							
	国産農産物安定供給効果 農用地や水利条件の改善により、国産農産物が安定供給され国民が感じる安心感の効果が発生する。 [便益] = 373,908 千円																							
	地籍確定効果 換地により地籍が明確になり、国土調査と同様の効果が発生する。 [便益] = 11,589 千円																							
	総便益																							
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">作物生産効果</td> <td style="width: 25%;">品質向上効果</td> <td style="width: 25%;">営農経費節減効果</td> <td style="width: 25%;">維持管理費節減効果</td> </tr> <tr> <td>2,458,232</td> <td>+</td> <td>910,382</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td>1,188,331</td> <td>+</td> <td>373,908</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>11,589</td> <td>=</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: right;">6,481,782</td> </tr> </table>				作物生産効果	品質向上効果	営農経費節減効果	維持管理費節減効果	2,458,232	+	910,382	+	1,188,331	+	373,908	+			11,589	=	6,481,782			
	作物生産効果	品質向上効果	営農経費節減効果	維持管理費節減効果																				
2,458,232	+	910,382	+																					
1,188,331	+	373,908	+																					
		11,589	=																					
6,481,782																								
総費用の内訳	① 事業着手時の資産価額 0 千円 (既施設の資産額を減価償却により整理)																							
	② 当該事業費 5,170,372 千円 (当該事業で整備する施設費用)																							
	③ 関連事業費 0 千円 (当該事業に関連する施設の費用)																							
	④ 評価期間における再整備費 1,095,288 千円 (工事期間+40年の評価期間内の再整備費)																							
	⑤ 評価期間終了時点の資産価額 656,137 千円 (工事期間+40年の評価期間終了時の資産額)																							
	総費用 = ① + ② + ③ + ④ - ⑤ = 5,609,523 千円																							
総費用総便益比																								
①総便益 6,481,782 千円																								
②総費用 5,609,523 千円																								
総費用総便益比 = 1.16																								

位置図



●事業効果の発現状況

<地区全景>

平成20年度時点



平成27年度時点



<区画整理>

事業実施前

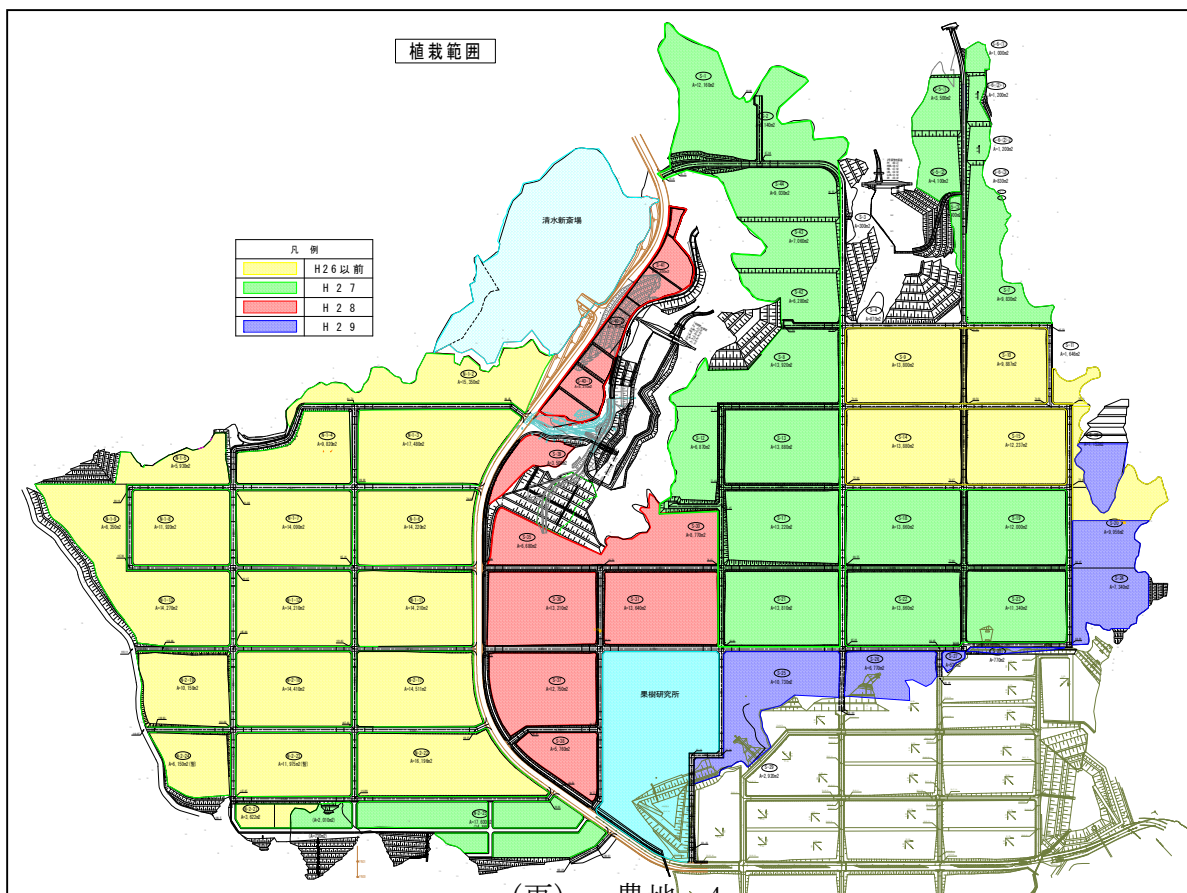


急傾斜農地

事業実施後



平坦な大区画圃場



省力化
(平成18・19年調査)

従前
収穫量: 330kg/1人・日
防除: 0.5日~3.0日/10a

要因

- 道路整備
- 緩傾斜
- 作業機械化

基盤整備後

高品質化
<高品質化>

従前

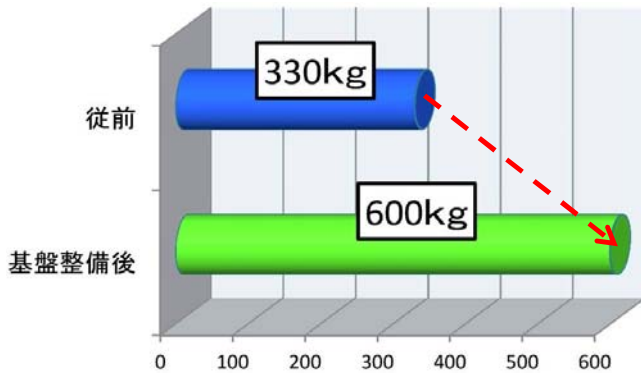
要因

- 畑かん施設
- マルチ化
- 日照時間の増
- 病虫害の減

基盤整備後

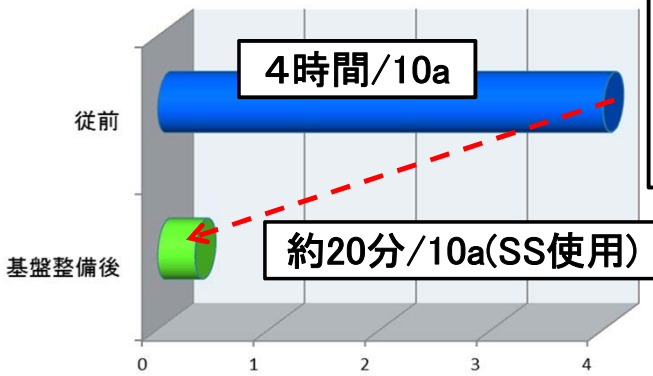
- 形状、糖度の均一化
- 年収穫量の安定

(1) 1人・1日当り収穫量の推移



徒歩、モノラック、軽トラによる運搬
↓
平坦化、道路整備により運搬車が大型化
↓
運搬速度向上
↓
1人・1日当り収穫量が倍増!

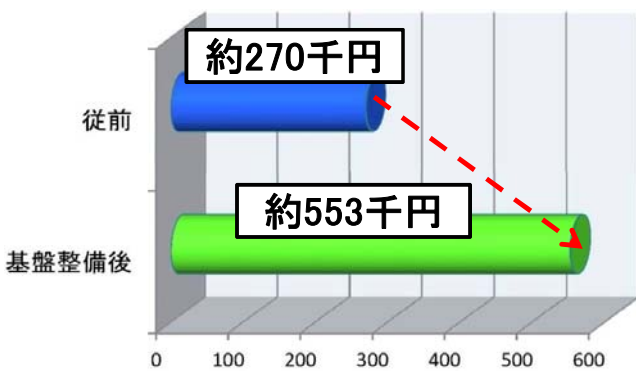
(2) 防除作業時間の推移



傾斜地で動力噴霧器 0.5日/10a
↓
平坦地でスピードスプレーヤー(SS) 平均20分/10a
↓
防除作業時間が激減!



(3) 10a当り所得の推移



傾斜地のため管理に限界があり、品質が不安定
↓
平坦大区画化、畑地かんがい施設整備
↓
日照量増、土壌条件改善、きめ細かな肥培管理が可能となり、高品質化及び単収量増加
※単収の変化(2,097kg/10a → 3,735kg/10a)
(JA管内平均) (実施地区平均)
↓
農家の所得が倍増! 営農意欲の向上!

<景観保全取組状況>

- ・矢部地区は、眼下に清水港と駿河湾、遠方には富士山を望む風光明媚な場所に位置している。
- ・植栽により、一大果樹園が誕生し、農業者が建てる農作業小屋等にも景観への配慮が必要となる。
- ・平成26年度より、景観に配慮し、防風ネットの色彩を従来の「青」から「ダークブラウン」に変更。
- ・隣接地区と連携し、「矢部・村松滝川地区 農村景観保全指針(仮称)」策定に向け、検討会を設置。
(事務局:中部農林事務所農村整備課 講師:武蔵野美術大学 造形学部 吉田教授)
- ・指針は平成28年度策定予定。

防風ネット(青)



防風ネット(ダークブラウン)



検討会開催状況(現地)



検討会開催状況(意見交換)



完成イメージ

